

国語

□ 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

「境界」に興味を持っている。
隣人との土地の境界、国と国との境界、職務分掌における境界。侵せば即争いに結びつく境界もあれば、こっそり越境して、①川を保って行動して見れば見逃してもらえらるが、調子に乗って我が物顔にふるまえば、生きて戻れないようなダメージを負わされる境界もある。

八ヶ岳の、ある別荘地で、元々「鬼の領域」とされていた場所がある。地元の人間はそこに田畑は作るが、**a** 家を建てて住むことはしなかった。聖地というより、**b** 自然災害が起きやすかったり、厳しい気候だったり、定住するには危険で住み心地が悪いから、人間の方が勝手に鬼や神仏を住まわせてしまったのだろう。

大規模な雪崩など普通に起きている。しかしだれも踏み込まない山の中であるから問題は起こらないという事を山岳系の雑誌で読んだときには、なるほど、と思わず **c** を打った。

川縁の住宅が流されたときの、ある自然保護団体の方のつぶやきが忘れられない。「川には川の領域つてもんがあるだろうよ」
洪水によってもたらされる肥沃な土地に米を作ってきた場所。そこに住宅を建てれば **d** になるのかわかりそうなものだ。近隣の住人が堤防内を耕して、作物と花と虫と鳥の小さな楽園を作り上げるのをうるさく禁止しながら、上流の開発を野放しにして河川沿いの宅地開発を許可する方々の感覚はどうなっているのだろう。山の斜面や河川の堤防ぎりぎりの場所が開発されていくのを見るたびに、地元の間人としては、ひやりとする。

山の領域、川の領域に比べれば、ささやかだが、森の領域、湿原の領域もある。こちらも調子に乗って侵食すると、気候を夏暑く冬寒い不愉快なものに変えたり、水を涸れさせたり、時間をかけて、じんわり、と **e** ツケを回してやる。

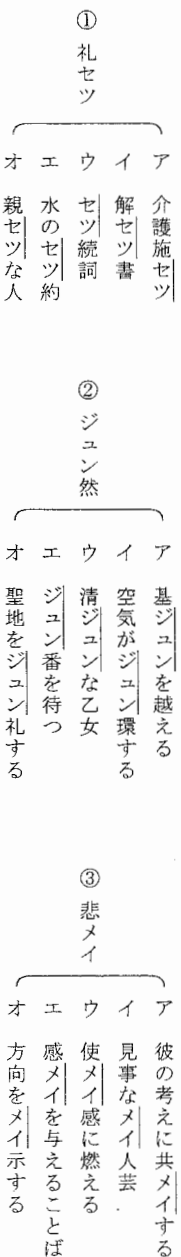
ところでご近所の小さな里山の様子が最近変わってきた。以前は、夏場になると林床部にさまざまな雑草や低木の葉が生い茂り、踏み分け道を人が遠慮がちに歩いていたのだが、**f** ローラーをかけるように行われる雑草刈りのために、藪がなくなり、石混じりの地面が露出し始めた。しばらくたつと再び夏草に覆われるのだが、種類が限られている。キツネノカミソリやカラスウリ、ヨメナ、キイチゴの類が姿を消し、刈り取られても刈り取られても生えてくる外来系のたくましいやつらが占領しはじめた。特に宅地の中にぽっかり残された林の常で、丈高く茂った夏草や低木が刈られれば、踏み分け道から外れてどこにでも人が侵入し、子供が駆け回り、犬が散歩する。おかげで踏みつけに強いオオバコやヒエ類が元気がいい **g** 回り始める。姿を隠せる藪を失い、鳥の種類が減り、**h** に巣をかけたカラスばかりが睨みをきかせる。蚊や不快害虫や爬虫類が減る、というのはこういうことだ。**i** 下手に管理の行き届いた公園はどこも同じような状態になっているのではないのか？

ところで最近、私の子供時代にさえ見たことのない子供の木登りを見た。深夜の帰り道に、懐中電灯を手にして甲虫観察に来た親子連れも目にした。宅地の中の林はずばらしい夏の記憶を幼い心に刻みつけてくれるに違いない。それならもう一つ、**j** ジュン然たる林の領域を守り、踏み分け道を外れそちらに侵入した際の小さな冒険も経験させてやりたい気がする。藪に入り込み、見たこともない小生物や草木に出会う。虫に刺され、バライチゴの枝や茅の葉で脛や腕に傷を作り、気味の悪い虫の巣に手を突っ込み **k** 悲しさを上げる。ダイズニードと違い、本物のワンダーランドは、常に境界の向こう側にあり、驚きと楽しさと小さなリスクに満ちあふれている。**l** そちらの世界と付き合うに作法があることは知ってほしい。

*分掌…… 分担して受け持つこと

(篠田節子の文章による)

問一 線部①～⑬のカタカナの部分と同じ漢字を、それぞれア～オの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。



問二 本文中の a b に入る語の組み合わせとして最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア a しかも b 当然
イ a 決して b おそらく
ウ a かえって b むしろ
エ a まして b やはり

問三 本文中の 線部 を打った」とは、「感心した時にする動作」を表すことです。空欄に入る最も適当な語を、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 胸 イ 腹 ウ 肘 エ 腰 オ 膝

問四 線部 1 「どうなるのかわかりそうなものだ」とありますが、具体的にどんなことが起こると考えられますか。自分の言葉でわかりやすく説明しなさい。

問五 線部 2 「ツケを回してくる」の主語は何ですか。本文中から過不足なく抜き出して答えなさい。

問六 線部 3 「ローラーをかけるように」という比喻を言いかえた一語として最も適当なものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 強力 イ 平坦 ウ 全体 エ 堅固 オ 回転

問七 線部 4 「下手に管理の行き届いた公園はどこも同じような状態になっているのではないか？」とありますが、ここに表されている筆者の気持ちはどういうものだと思いますか。次のア～エの中から最も適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア カラスウリやキイチゴなどが姿を消すのは仕方がないことだと納得している
イ 在来のもとの外来のものが混在することを積極的に受け入れている
ウ 敷がなくなることは蚊や不快害虫が減ることで喜ばしいことだと思っている
エ 快適な状況を得ると反対に失われるものがあることに疑問を感じている

問八 線部 5 「そちらの世界と付き合うに作法があることは知っていていい」とありますが、この「作法」というものはどのようなことをさすと思いますか。本文中の言葉を使い、十五字以内でまとめて答えなさい。

問九 次のア～オの文で本文の内容と合っているものには○を、まちがっているものには×をつけなさい。

- ア 川の上流の開発をきちんとすれば、堤防内の小さな楽園も禁止されなくてすむのである
イ 人や犬が通る場所には、その状況に適應できる植物だけが生き残ることになる
ウ 危険に満ちた世界こそ、本物のワンダーランドの持つ一面なのである
エ 境界というのは、どのような場面においてもだれも入り込むことはできないものである
オ 領域を侵さず守ることは、環境破壊を防ぎ地球を守るために重要なことである

□ 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

これからの子どもが生きてゆくにあたって、しつけがもつ意味は何か。子どもが「生きてゆくこと」の文脈の中にしつけを置いてとらえ直してみたいと思います。

「生きる」ということ、「生活する」ということ、この中心課題、それは、人間が「自己の実現」と「他者との関与」(コミットメント)という、二つの側面をどう統合して生きるかということにあると思います。人は個として、自分の思うところ、望むところ、信ずるところの達成を目ざして生きようとしています。しかし、同時にそれは、ともに生きる人——その人もまた個としての自己を生きている——たちとのかかわりの中で、そしてそのかかわりを少しでもよいものたらしめる方向の中で実現してゆくことが求められます。

ここでいう「1」とは、身近な個々の人である場合もあれば、自分の属するさまざまな集団であることもあり、広く社会や文化である場合もあります。発達のレベルや、その時その場の要請によっていろいろの形を取ってやることになります。

いずれにしても、人間は、自分という「a」としてあるとともに、「b」としてあります。その二つのあり方がそのまま重なり合う場合は問題ありませんが、現実の生活では、対立葛藤し合うことが多く、その解決を迫られます。それは人間存在として私たちが[a](#) unavoidable に担っている二律背反性であり、両義性であるといえます。①意識的にせよ、暗黙裡にせよ、私たちの日々の生活はそのことへの対処で成り立っています。おとななら、自分の家庭での、また職場での行動や生き方を考えれば明らかでしょう。自分の要求やふるまいとそれが周囲や社会に対してもつ関係、共同性と責任との間の葛藤の中に私たちは生きています。

この自己実現と他者との関与の統合は、常に人間に課せられ、誰もが迫られている要請であり、解決がいちばん難しい課題にちがひありません。いや生涯をかけても正答不能な問題でしょう。少なくともよりよく生き、より誠実に自己と人に対しようとしている人である限り、②このことの難しさは生活の中で感じとっているはずで、だからこそ、生きることは多くの悩みや悲しみと表裏しているでしょう。私たち人間の共同体は、こうした解決困難な問題を互いにかかえあつた一人一人の集まりであり、その解決を求めている努力こそが共同体を創り上げる「凝集力」になっているのにちがひありません。

子どもが、この人間として生きることの中心課題にはじめて、そして具体的に直面し、その解決を「ア」迫られるのが、まさしく「しつけ」の場面であることを、私は以下にくり返し強調してゆくことになります。しつけの中で、子どもはいよいよ「生きる場」へ投げ込まれるのです。

しつけを、生きることの文脈の中に置き直して考えたいと先に述べました。確かにしつけは基本的な習慣・スキルや礼儀作法の教え込みを大きな側面として含みますが、③その観点だけに限ってしつけを見ることには、しつけの本来的な意味が覆いかくされる危惧を抱くからです。特に今日の子どもや教育の現状を見る時、その危惧をより強くします。(A)

④自己の実現と他者との関与を現実生活の中で統合することは、きわめて難しい二律背反であることを先に強調しました。その解決方法は、人間(子ども)が現実の生活の場での具体的経験として、実際に苦しい模索を重ねながら、「自分で」身につけてゆくしかないものです。外からの教え込みや強制は、時によってはその場の助けになることはあっても、それだけでは解決はありえません。(B) 子どもはしつけの中で、いちばん好きな両親や先生が自分に課してくる要請と、自分の要求との対立に苦しみながら、そしてその中で親や先生との共同生活をどう創り上げてゆくに悩みながら、人間の生き方の基本を学んでゆきます。(C)

今日の子どもや青年に多く見られる自分の側の「意図」や論理だけで人に接する態度、それが場合によっては他者の身体・生命に対する悲惨な事件にすら至ったことを考える時、その人間にとつて⑤出発点となるべき幼児期の基礎的経験が不十分なままに来てしまっているのではないかと、という検討がなされるべきだと思います。それは、親が厳しさや権威を欠いていたとか、礼儀作法や善悪を教えなかったとか、道徳教育の不足とかいう形の、形式的な「謝者」の批評では済まされたい問題です。現にかつてとちがって、「あんないい子が」とか「平素は礼儀正しく愛想のよかつた子なのに」と言われる子が非行に走つたりすることも多く報告されています。⑥知識としての善悪はどの子でも(いじめをする子でも)知っていますが、「生きる意味」(自己の実現と他者との関与の統合)を求める基本的態度の形成が稀薄のまま、児童期や青年期に至る子が多くなっているのではないかと思います。(D)

「しつけ」の「エ復権」を求める人も多いし、そのことは私も反対しません。ただその時に、「もつときびしく」とか「親や先生の権威を」とか「昔のように礼儀作法を」とか式の主張だけでは、⑦本質的解決につながることはならないのです。

もとより私は、今日の子どもにおけるさまざまな問題行動のすべてが、幼児期のしつけのあり方に「起因」していると言うつもりはありません。ことに現在の文化や情報化社会の複雑さ、おとな(特に権力者)の倫理感の低下等々、子どもを生きづらくする状況は、複合した重圧として子どもにのしかかっています。

そうした中を生きてゆかねばならぬ子どもがまず幼い時期、生きることの基本的問題と意味、自己の実現と他者との関与の統合とい

うことを、**II**の中でどれだけ体験できているかが人生への出発点としての幼児期のもつ意味を左右する、と言いたいのです。
 (岡本夏木の文章による)

- * 葛藤……………
 - * 二律背反……………
 - * 両義性……………
 - * 暗黙裡……………
 - * 凝集力……………
 - * 危惧……………
 - * 模索……………
- 二つの相反するものがゆずることなく対立すること
 同一の前提から導き出された二つの判断が矛盾して両立しないこと
 一つの言葉が二重の意味を持つという性質
 暗黙のうちに
 一カ所に集まり一つのかたまりになって出る力
 (結果や将来が) 悪くなりほしくないかと心配すること
 どうすべきか、その方法などをさぐっていくこと

問一 線部ア、オの漢字の読み方をひらがなで答えなさい。

- ア 迫られる
- イ 意図
- ウ 識者
- エ 復権
- オ 起因

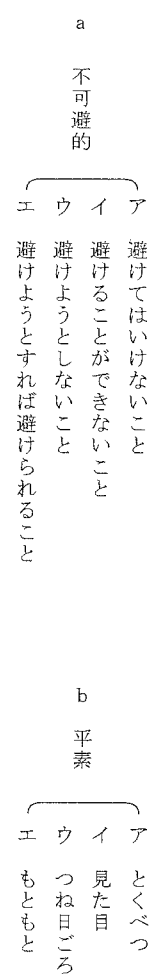
問二 本文中の**I**に入る語として最も適当なものを次のア、オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 課題
- イ 統合
- ウ 自己
- エ 他者
- オ 達成

問三 本文中の**a**に入る語の組み合わせとして最も適当なものを次のア、エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア	a	集	b	属
イ	a	属	b	集
ウ	a	個	b	類
エ	a	類	b	個

問四 線部a「不可避的」b「平素」の意味として最も適当なものを、それぞれ次のア、エの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。



問五 線部①「意識的にせよ、暗黙裡にせよ、私たちの日々の生活はそのことへの対処で成り立っています」とありますが、これをわかりやすく言いかえている一文を抜き出し、始めの五字を答えなさい。

問六 線部②「このこと」は何をさしていますか。本文中から十四字で抜き出して答えなさい。

問七 ———線部③「その観点」とありますが、何をさしますか。本文中から二十字で抜き出しなさい。

問八 ———線部④「自己の実現と他者との関与を現実生活の中で統合することは、きわめて難しい二律背反であることを先に強調しました」とありますが、きわめて難しいということばで表現していますか。本文中から十四字以内で抜き出して答えなさい。

問九 ———線部⑤「出発点となるべき幼児期の基礎的経験」とありますが、このことが具体的に書かれている一文を本文中から抜き出し、始めの五字を答えなさい。

問十 ———線部⑥「知識としての善悪はどの子ども（いじめをする子ども）知っています」とありますが、これはどういうことですか。自分の言葉でわかりやすく説明しなさい。

問十一 次の文は、本文中の（A）～（D）のどこに入るのが最も適当ですか。一つ選び記号で答えなさい。

【それは「生きる意味」を求める態度を形成してゆく営みということができます。】

問十二 ———線部⑦「本質的解決につながることはならないのです」とありますが、本質的解決をするためにはどうするのが良いというのですか。筆者の考えを後半（五ページ最終行から後）の部分から一文で抜き出し、始めの三字を答えなさい。

問十三 本文中のⅡに入る最も適当な語を、次の中から一つ選び記号で答えなさい。

ア 権威 イ しつけ ウ 重圧 エ 文化 オ ふるまい